

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	重症心身障がい児 放課後等デイサービスひまわり菊川西校			
○保護者評価実施期間	令和6年 10月 1日		～	令和6年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数)	9名
○従業者評価実施期間	令和6年 10月 1日		～	令和6年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年 11月 14日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の職員の意識が高く、利用児に対し良い支援が出来る様、意見を多く出すことが出来ている。	毎日、順番で担当の利用児を決め細かい事も無逃さずケースノートなどに記入し報告している。	意見が多い分、話し合いに時間がかかるので、なるべく話し合える時間をつくっていききたい。
2	放課後と言う限られた短い時間の中で、スペースを考えた集団活動、個々似合わせた個別活動、医療的ケアの時間等、工夫して行われている。	スケジュール、活動の手順などを事前に話し合い計画している。 個々の利用児にあった個別活動を考え、本人が何をしたいか選べるようにしている。	介護においてイレギュラーなこともあり、時間がかかることもあるので、リスクに対応した話し合い、訓練も行っていきたい。
3	利用児の視線や細かな動きを見逃さず、何に興味があるのか、どの様に感じているかを汲み取り、保護者、職員に共有し伝える事が出来ている。	活動中では、色々な物に触れたり、聞いたり、体験したりして本人の興味がある物を探している。 自分から、好きな物を選べる様にいくつか選択肢を作り選べるようにしている。 送り時、必ず保護者と対面し報告をしている。	好きな事、興味のある物など見つけ、子どもたちの成長に合わせ、さらに自分で出来るという自信に繋げていきたい。 本人と関わる関係機関に周知していきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	幅広い年齢の利用児をお預りしているため（小学1年生から高校3年生まで）一つの空間で全員、過ごす事になってしまっている。パニックをおこした時、落ち着いて過ごしたい時、体調の事を考慮したい時など、もう一つ空間が必要と感じている。	支援室が一室。部屋面積は広いが、利用人数が多い事と、活発に動ける利用児が多い。 年齢幅、障害も様々なので支援室が一室となると個別対応が難しい。	事務所隣の部屋を利用し、食事やパニックをおこした時のクーリングとして利用するようにしている。 カーテンなどを利用し、仕切りをし視覚的に遮り、空間を作っている。 室内で過ごすことが多いので、もう一室必要と感じる。
2	バリアフリーになっていない。段差がある為、バギーなどスムーズに通じづらい。 トイレの数が少ない、出入口の幅が狭い。 障害と特性に応じた環境ではない。	バリアフリーではない。 トイレを使用し用を足す事が出来るが利用児多い事と、時間がかかることが多いので、トイレが少ないと感じている。	建物の構造上バリアフリーやトイレの増設は難しいと思うが、職員努力により使用できている。 トイレ使用では、時間をずらすなどしている。
3	地域の交流や児童館などでの子どもたちの交流が難しい。	医療的ケア児をお預りしている為、感染症、体調の事も考え難いと考えている。	普段から草取りや、周辺清掃など職員が行い地域住人との交流をしている。そのことにより、まわりに周知を図っている。